

公開プレゼンテーション実施状況

公開プレゼンテーション実施状況

平成24年度におけるプランの進捗状況について、外部の視点から評価・検証し、次年度以降に向けての提案を得るとともに、市として積極的に推進している事項を取り上げ、本市行財政改革の取組を市民に知ってもらうことを目的として実施しました。また今年度は新たに市内3大学と連携し、学生参加の取組を行いました。

- 開催日時 平成25年7月6日（土） 午前10時～午後3時50分
- 開催会場 豊橋市役所東館8階 東81・86会議室（2会場）
- テーマ数 10テーマ（市民生活に密接に関わる取組を中心に選定）
- 参加者数 180人

【第1会場（東81会議室）】

No.	テーマ	所管課（室）名	外部検証委員
1-1	「のんほいパーク100万人プロジェクト」の仕組みづくり	動植物公園 自然史博物館	石原俊彦 諏訪一夫 富田真知子 村松史子
1-2	豊橋農業を活性化するための農産物ブランド化の取組	農業企画課	
1-3	観光資源のPRに向けた関係団体との連携強化	観光振興課	
1-4	災害時の情報収集・発信の充実	防災危機管理課	
1-5	「住みよい暮らしづくり計画」の推進と市民協働に関する職員意識の醸成	市民協働推進課	

【第2会場（東86会議室）】

No.	テーマ	所管課（室）名	外部検証委員
2-1	公共施設老朽化への対応	ファシリティマネジメント推進	世羅徹 伊藤眞芳 大久保裕美子 功刀由紀子
2-2	地域が主体的に取り組む健康のまちづくり事業の推進に向けた支援	健康増進課	
2-3	自主的な耐震化への支援と市民意識の醸成	建築指導課	
2-4	学校給食における民間活力の導入	保健給食課	
2-5	多様なメディアを活用した広報活動の推進	広報広聴課	



公開プレゼンテーション実施状況

1-1 「のんほいパーク100万人プロジェクト」の仕組みづくり（動植物公園・自然史博物館）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	③ 地域資源の発掘と積極的なプロモーション活動の推進
取組項目	総合動植物公園、自然史博物館と周辺の社会教育施設との連携による「のんほいパーク100万人プロジェクト」の仕組みづくり (効果目標等：魅力のあるイベント開催等による集客数の増加)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道会社との連携や教育委員会の費用を使い動物園で授業を行うなど全庁的な体制で集客UPに取り組むことが必要ではないか。 ○ 新幹線から見える展望塔を活用し、動物園の存在をPRすればお金がかからず有効ではないか。 ○ 路面電車や飲食店との共通キップなど民間との連携や、豊橋の玄関口である豊橋駅を起点に遠方からの客を取り込み、その際には豊橋駅の降りたところに看板を設置する等、動植物公園まで誘導することが必要である。
市民意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ ラジオCMにより若年層の拡大を図るということであるが、若者はラジオをあまり聴かないと思う。 ○ 二川駅を利用する人は少ない。豊橋駅からシャトルバスを出した方がよい。 ○ 健康増進のため二川駅からのシャトルバスは不要である。



意見を踏まえての取組に対する認識	豊橋駅への看板設置や展望塔を活用したPRなど、積極的な情報発信が大切であるという認識のもと費用対効果の観点も踏まえ分析・整理し、今後の効果的なプロモーション活動の推進について検討していきたいと考えています。
------------------	---



公開プレゼンテーション実施状況

1-2 豊橋農業を活性化するための農産物ブランド化の取組（農業企画課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進 2 「自立と責任」の強化に向けた行政体制の整備
重点推進項目	③ 地域資源の発掘と積極的なプロモーション活動の推進 ⑨ 自治体間の広域連携事業の推進
取組項目	1. 豊橋産農産物のブランド化を促進するため、「農産物ブランド化のためのプロモーション計画」の策定と推進 （効果目標等：とよはし農産物ブランド化） 2. 農産物輸出の推進に向けた連携強化 （効果目標等：輸出品目の拡大等）
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブランド化するには強烈なインパクトを作る必要があることから、豊橋市民がより地元の野菜を食べるよう、地産地消を誘導するだけではなく、豊橋産の農産物を食べた場合には何らかのメリットがあるなどの工夫をしてみてもどうか。 ○ 天伯スイカやキャベツなどは日本中に誇ることでできる野菜であると思うが、天伯スイカなどインパクトのあるものを都会で販売してみてもどうか。 ○ 戦略3品目から外れた農産物を生産している農家が納得できるよう、生産者の増加という最終目標に向けてブランド化の取組を強化してもらいたい。 ○ 有名料亭などにプロモーションし、豊橋産の野菜を使用してもらうことでブランド化が図れるのではないかと。プロモーション先をどこにするかは重要であり、ストーリーを描いてマーケティングしていくと上手くいくかもしれない。店頭の商品がたくさん並ぶことがブランド化ではなく、豊橋の野菜は素晴らしいと認識してもらうことがブランド化ではないかと。
市民意見	戦略3品目にこだわる必要があるのか。インパクトも弱く、好き嫌いが多く品目だと思ふ。



意見を踏まえた取組に対する認識	本市の農産物プロモーションは戦略3品目に重点を置いて実施しますが、必ずしもそのみの活動ではありません。戦略3品目以外の品目についても活動は行っていきます。 今回いただいた皆様のご意見を今後の参考とさせていただき、より一層効果的なプロモーションに努めていきたいと考えています。
-----------------	--



公開プレゼンテーション実施状況

1-3 観光資源のPRに向けた関係団体との連携強化（観光振興課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	③ 地域資源の発掘と積極的なプロモーション活動の推進
取組項目	観光資源の魅力とPRの促進に向けて豊橋観光コンベンション協会等との連携強化 (効果目標等：観光イベント、コンベンション参加者数 現状(H21)103万人 目標(H27)115万人)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none">○ 総合的な観光戦略ではどこも同じでばけてしまうので、ポイントを絞って豊橋ならではの良さをPRしてもらいたい。○ 各種学会誘致の成果は評価できる。市民総おどりは昔に比べると単調になっているので、工夫が欲しい。○ 豊橋まつり等既存の毎年行うイベントに多少の付加価値を付けているだけではいつまでたっても難しいと思う。目標を達成するためのきめ細やかな戦略が欲しい。○ 尼崎市は観光都市ではないが文化遺産、湯たんぼ、高級クッキーなどをコンテンツに「るるぶ」を作っているのを参考してはどうか。また美術博物館など文化施設を観光に結びつけるとよいと思う。
市民意見	<ul style="list-style-type: none">○ 観光計画に吉田城が含まれていない。歴史に関する観光をしてほしい。○ 観光情報発信としてネット、ツイッターが重要であると考えてるので充実して欲しい。



意見を踏まえての取組に対する認識	豊橋市を強く印象付け、来訪を促すため、シティプロモーションの主要コンテンツである「手筒花火」、「市電」、「総合動植物公園」、「食文化（豊橋カレーうどん等）」に重点を絞った観光誘致事業の展開について、市民・民間団体との協働を深め、積極的な取組を進めるとともに、効果的な情報発信としてSNSの活用に取り組みたいと考えています。
------------------	---



公開プレゼンテーション実施状況

1-4 災害時の情報収集・発信の充実（防災危機管理課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	⑤ 行政情報の積極的な受発信と地域情報の共有化
取組項目	災害時の情報収集・発信の拠点となる登録事業所等（災害情報ステーション）の拡大 （効果目標等：登録事業所 現状（H22） 145事業所 目標（H27） 300事業所）
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none">○ 役所は情報発信が得意だが受けるのが弱いと思う。大きな災害だけが危機管理ではない。いち早く民間から情報をもらう体制づくりが重要である。○ 災害情報ステーションの候補となる事業所が少ない地域への対策が必要である。○ 災害情報ステーションの登録事業者数が138から膠着している現状をやむを得ないと考えていることが問題である。事業所以外の人などを取り込むなど視点を変えてはと思う。○ 事業者とのパートナーシップにおいて、商工会議所と連携するなど、特に中小企業とのパートナーシップ強化に努めるなどの工夫が必要である。
市民意見	<ul style="list-style-type: none">○ 災害情報のためのスマホのアプリを作り、自宅や現在地に近い避難所を表示させることができたらよいと思う。○ 災害情報を市民へ発信するだけでは十分とは言えない。災害情報を活用するための市民に対する訓練も大事である。○ 市の大きな施設、例えばライフポートで地震や津波が来たら不安に思う。公共施設にいた場合の避難経路や避難手順を確立して欲しい。
意見を踏まえての取組に対する認識	訓練を実施するなど取組内容の強化に努め、情報伝達手段の複線化の一層の強化に取り組み、その上で災害情報ステーションの登録事業所の増加に取り組んでいきたいと考えています。



公開プレゼンテーション実施状況

1-5 「住みよい暮らしづくり計画」の推進と市民協働に関する職員意識の醸成（市民協働推進課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	② 地域団体等との協働事業の推進 ⑥ 行政の協働推進体制の強化と効果的な支援策の推進
取組項目	1. 地域の身近な課題に共に取り組むため、「住みよい暮らしづくり計画」の参加校区の拡大と体制づくりを支援 (効果目標等：参加校区数（累計） 現状(H22) 4校区 目標(H27) 19校区) 2. 市民協働に関する職員研修の充実 (効果目標等：市民協働に関する職員意識の向上)
各委員の意見	○ この計画は、現時点では、行政が各校区の自治会などを通じて地域住民を先導していくものである。将来的に地域住民が自主的、自律的にまちづくりを行うために、行政から地域にまちづくりなどを移転させる時期や方法を考えて取り組んで欲しい。 ○ 平成24年度までに「住みよい暮らしづくり計画」の参加校区が11校区となったが、全体に広がれば5倍近くになり、さらなる取組を期待したい。 ○ 実施にあたっては、参加校区のリーダーの資質や、行政のフォロー体制などが重要となる。職員研修についても、受講させるための体制が重要になることから、これらの点に留意し取り組んでもらいたい。 ○ 例えば、人口100万人規模のバーミンガム市では、校区単位で市議会議員が選出され、月収10万円程度で活動している。この制度では校区単位の意見や地域の問題点などを議会に反映できる。我が国の制度とは異なるが、自治会の課題などを市議会・市政に反映させる計画作りの参考となるのではないかと考える。
市民意見	市民協働の進め方が実態とかけ離れている。例えば、自治会長の仕事は、交通・環境など多く、これに加えて計画の取組を行うとなると厳しい。また、市役所との連絡方法がいまだに郵送・FAXであり、インターネットを用いた方法(E-mailなど)を採るべきである。
意見を踏まえての取組に対する認識	多様化する地域の課題やニーズに対応するには住民自らがまちづくりに参加しやすい環境づくりが重要であり、各校区の実情に合わせながら「住みよい暮らしづくり計画」取組校区を拡大し、そのための体制づくりとして地域リーダーの育成、職員によるフォロー体制の強化、職員研修の実施等の充実を図っていきたいと考えています。



公開プレゼンテーション実施状況

2-1 公共施設老朽化への対応（ファシリティマネジメント推進室）

区分	内容
基本方針	3 財政運営の自立性・健全性の確保
重点推進項目	⑭ 将来負担の適正化
取組項目	公共施設マネジメントの強化 (効果目標等：公共施設の保全計画の策定と将来負担の平準化)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none">○ 「ファシリティマネジメント」という言葉や内容・手法が市民には分かりにくいことから、市民に認知してもらう努力をしてもらいたい。○ 中核市における人口 1 人当りの延べ床面積の平均を基準として示すのではなく、必要な市民サービスを提供するために適切な規模はどの程度かという観点から計画を作成して欲しい。○ 人口減少の中、今後多くの施設を維持していくのは困難となり、全国的に施設数を減少していく方向になると思われる。その際、数の多い教育施設などが主な対象となるが、道路や橋梁・公園なども対象となり、長寿命化や改修計画を FM の観点から行う必要がある。市民への影響が大きいものであるが、行政的で分かりにくいので具体的施設を例に、関係各課と協議連携しながら、市民に説明していく必要がある。
市民意見	施設の長寿命化を目的とした改修をするうえで、将来的に小学校を高齢者施設に使えるよう改修するなどの取組が必要だと思う。



意見を踏まえた取組に対する認識	公共施設の管理運営を総合的・中長期的な視点から行うファシリティマネジメントの推進にあたっては、市民意識の醸成が最も重要な要素であるため、今後も分かりやすい説明と情報提供に努め、施設の計画的な保全による長寿命化、施設機能の複合化及び改修・修繕にかかる費用の平準化等を図っていく必要があると考えています。
-----------------	--



公開プレゼンテーション実施状況

2-2 地域が主体的に取り組む健康のまちづくり事業の推進に向けた支援（健康増進課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	② 地域団体等との協働事業の推進
取組項目	地域コミュニティの主体的な健康づくり活動の活性化を図るため、健康のまちづくり事業への参加校区の拡大とプランづくりを支援 (効果目標等：新規参加校区 現状(H22) 3校区 目標(H27) 5校区)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康のまちづくりは多岐にわたることから、他の課との連携を強化し、推進してもらいたい。 ○ 1、2年目は行政が地域をしっかり支援し、3年目は地域が独力で事業を実施できることを目指すという内容だが、独立が図られていない事例が多く、このまま新規開拓すると行政の負担が増えていくことから、その点を留意して取り組んでもらいたい。 ○ 新規地区が広がらない理由として、事業推進に対するメリットが伝わっていないのではないかと。単にウォーキングに参加すれば良いというわけではなく、健康になることで医療費が下がるという成果を可視化してメリットを伝えれば主体的に参加する人は増えると思う。 ○ 新規地区の参加が少なく苦労しているのがわかるが、健康になればよいことばかりである。そのことが伝わりやすいように、医療費の件のように健康づくりを指標化することが重要である。行政の関わり方は難しいが、少しずつ主体を市民に移していくことは重要なテーマである。複数の団体、複数の課が関わっているが、大事なテーマをしっかりと共有して各々協力しながら活動して欲しい。高齢者以外でも世代を超えて活動が広がると良い。
市民意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツイベントカレンダーやカロリー測定のできるスマホアプリを作成してはどうか。 ○ 高齢者がゲートボールなどをしている光景を見かける。子供の時からそのようなスポーツとふれあう機会があれば世代を超えた交流ができる。
意見を踏まえた取組に対する認識	地域団体等への継続支援の必要性や、他課との連携、市民にわかりやすい成果の示し方、人材育成等が重要だと感じており、事業の見直しをしていきたいと考えています。



公開プレゼンテーション実施状況

2-3 自主的な耐震化への支援と市民意識の醸成（建築指導課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	① 市民の自主的・自立的な活動の推進
取組項目	市民の生命や財産を守るため、自主的な耐震化の取組を支援するとともに耐震化に関する市民意識の醸成 (効果目標等：住宅の耐震化率の向上)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none">○ 24年度の耐震改修実績をみると啓発活動が功を奏していない。啓発活動そのものの再考が望まれる。○ 災害マップと建築物被害想定を重ね合わせたマップを作り、啓発に役立ててもらいたい。○ 倒壊の恐れのある古い建物のある地域を示したマップを災害マップと合わせてホームページなどで公表してはどうか。○ 豊橋市の耐震化率 83.9%は比較的高い方だと思われるが、まだ約 2 万 2 千棟が耐震化されておらず、今までの進捗状況で計算すると約 200 年かかる。いつまでどのようなにするか財政的な面も含めた計画策定・終期設定を検討する必要がある。建物の耐震化は個人の受益のためとを感じるが、市全体や地域の安全対策としていかに大切かを打ち出して啓発していくことも大切である。
市民意見	<ul style="list-style-type: none">○ 耐震診断を受けた数はあまり変わらないのに耐震化した棟数は減っている。経済的理由なら改修コストを下げる努力や、シェルター設置の方が安いのならそちらを増やすようにしたらどうか。
意見を踏まえての取組に対する認識	耐震化が個人の問題ではなく、地域の安全性の問題であるとの認識の中で、災害マップ等を活用した地域に対する耐震化の啓発活動を検討していきたいと考えています。また、耐震化の実績につながるような工法等の検討についても、事業者との連携を含め検討していきたいと考えています。



公開プレゼンテーション実施状況

2-4 学校給食における民間活力の導入（保健給食課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	④ 企業の公益的な活動への参画機会の拡大による良質なサービスの提供
取組項目	学校給食調理業務における民間活力導入の拡大 (効果目標等：効率的・効果的な学校給食の提供)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none">○ 民間ノウハウを活用するために連絡会議の内容を公表してはどうか。○ 豊橋市はPFIによる10%経費削減などコスト管理がうまくできている。また委託化することで調理員の雇用期間を限定できるなどメリットもあることから、職員の配置転換の対応も考慮しながら民間活力の導入を進めていくべき。その結果どのような効果があったかを積極的に公表していくことも必要である。
市民意見	<ul style="list-style-type: none">○ 学生時代冷たいアイスや温かいスープが嬉しかった。委託化による給食の提供サービスの質が低下しないよう注意して欲しい。



意見を踏まえての取組に対する認識	より身近に給食を感じてもらえるよう積極的な情報提供を行っていくとともに、民間活力の導入について、引き続きPFI方式、直営方式など比較検証を進める中で、今後の方向性を決定していきたいと考えています。
------------------	--



公開プレゼンテーション実施状況

2-5 多様なメディアを活用した広報活動の推進（広報広聴課）

区分	内容
基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	⑤ 行政情報の積極的な受発信と地域情報の共有化
取組項目	多様なメディアを活用した広報活動の推進と双方向の情報受発信の効率的・効果的な仕組みの充実 (効果目標等：開かれた市政の推進と協働意識の醸成)
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページを見ることのできる環境の人が若い層を中心に8割にもなることだが、高齢者を中心に使えない人もいる。そういった人がいることも留意して取り組んで欲しい。 ○ サーバーはティーズに置かれていることだが、災害時ではどこにサーバーがあるのが重要となる。全部が難しくても一部はクラウドにしてはどうか。 ○ 15年程前までは行政情報は手に入らない時代であった。今では民間のホームページよりも行政の方が必要な情報が手に入りやすい時代へと大きく変化した。どんなに情報の伝達手法が発達しても、ついていけない人は必ずいる。そのような人たちへのケアも必要である。SNSについては、市民の要望の強い分野等を中心に精査すれば、効率的・効果的に使えると思う。豊橋はシティプロモーション活動も活発で広報紙もきれい。今後も豊橋を全国に発信して欲しい。
市民意見	今回のプレゼンはフェイスブックで知った。更なる充実を望む。



意見を踏まえての取組に対する認識	市政情報を市民の皆さんと行政とが共有できるよう、様々な媒体を活用した情報発信の充実を図っていきます。ホームページについては、豊橋市の魅力を発信しつつ、誰もが使いやすいものになるようリニューアルを進めていきます。
------------------	---